

研修参加報告書

平成29年12月21日

会派名 江政クラブ
会派代表者 河合 正猛

(参加者：幅 章郎)
研修参加の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	平成 29 年 11 月 6 日 (月) ~ 7 日 (火)
研修時間	12 : 30 ~ 17 : 00 9 : 00 ~ 14 : 30
研修場所	全国市町村文化研修所 (J I A M)
研修内容	市町村議会議員研修 「議会改革を考える～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～」 (講師：北川 正恭氏、中村 健氏、広瀬 重雄氏 川上 文浩氏、松野 豊氏)

②

年月日	平成 年 月 日 ()
研修時間	
研修場所	
研修内容	(講師：)

③

年月日	平成 年 月 日 ()
研修時間	
研修場所	
研修内容	(講師：)

研修参加報告書

①

年月日	平成 29 年 11 月 6 日 (月) ~7 日 (火)
研修時間	12 : 30~17 : 00 9 : 00~14 : 30
研修場所	全国市町村文化研修所 (J I A M)
研修内容	市町村議会議員研修 「議会改革を考える～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～」 (講師：北川 正恭氏、中村 健氏、広瀬 重雄氏 川上 文浩氏、松野 豊氏)
■目的	市民に関心を持っていただける議会となるため、どのような取り組みが必要かと言うことについて先進事例を学ぶとともに、全国の参加議員との情報交換などからも学ぶ機会を得るため。
■内容	<p>【講義 1】</p> <p>地方自治の現状と議会改革の動向 早稲田大学名誉教授 北川 正恭氏 地方は地方議会から変えていく。 議会の立ち位置を変えないといけない。 →地方分権の時代から地方創生の時代へ 追認の議会から立法の議会への変革 政務調査費（現：政務活動費）の創設は議員としての活動の高度化を意味し、立法に向けた研鑽をより一層積まなければならない 郷土の良いものを発掘し、磨き、育てるのが議会の役割</p> <p>【講義 2】</p> <p>議会改革の進め方 早稲田大学マニフェスト研究所 中村 健氏 議会改革は誰のために、何のためにやっているのか。 議会改革度調査とは情報公開、住民参加、議会機能の強化の各項目を指標化し開かれた議会度を測るもので、議会としてどのような活動をしているか、議会として活動した結果、地域に変化を起こせたかどうかを自らチェックできるようにするもの。 真の議決権を行使することが議会に求められている。 そのためには情報収集、調査、分析をする能力が必要となる。 その機能を果たすのが「議会図書室」であるが、 人手がない</p>

お金がない

スペースの確保が出来ない

どうせ誰も使わない

そんな状態になっている議会が多い。

外部とのネットワークを構築したり、データベースを活用することでこうした問題点をクリアーし、議会の調査分析能力を向上しないといけない。

【事例紹介 1】

芽室町議会が進める住民参加と情報公開

北海道芽室町議会議長 広瀬 重雄氏

住民参加の手法として

「議会モニター制度」「町民との意見交換会」政務活動費の導入、議員間討議の実践についてなどの諸課題について諮問・答申をもらう「議会改革諮問会議」町民の議会への意見をはがきで寄せてもらう「議会ホットボイス」を実施。

情報公開として

議会ホームページ、本会議・委員会のネット中継、SNSの活用、議会だよりの毎月発行などを実施。

【事例紹介 2】

岐阜県可児市議会議長 川上 文浩氏

4つの政策サイクルを回し多様な民意を反映する。

「議会運営サイクル」

「予算決算サイクル」

決算認定の際の課題を抽出し、次年度予算審議に反映させる。

「政策サイクル」

常任委員会を各種団体との懇談会、議会報告会などで出された市民の意見や議員からの一般質問から抽出した課題を、定例会ごとに各常任委員会の所管事務調査に追加し委員会機能を充実させる。

「若い世代との交流サイクル」

高校生議会やママさん議会、地域課題懇談会等で集約した若い世代の意見を反映する。

【講義 3】

麗澤大学 地域連携センター 客員研究員 松野 豊氏

議会改革は自分改革

議会改革を一步前に進める 10 の法則

①議員同士のコミュニケーション改革

②法律や仕組みを正確に理解する

③全議員対象の研修会を企画する

④先進地視察に議会の委員会として行く

⑤個人の活動、選挙活動、会派の活動、議会の活動の棲み分けを明確にする

⑥自分の手柄にしない

⑦議論を公開する

⑧議会内で合意形成できたものは、決議等で議決し機関決定する

⑨議会事務局と連携する

⑩議会基本条例を制定する

■所感

地方の活性は地方議会の活発な活動なくしては成しえない。

議会改革は目的ではなく地域の発展の為の礎づくりだとの認識のもと、情報収集、分析力をさらに高め、市民の皆さんの役に立つ議員、また議会とならなくてはと感じました。